

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

| | | | |
|---|--------------------|------------------------|--------|
| 博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.) | 博士 (文学) Ph.D. | 氏名 (Candidate Name) | 出木 良輔 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当 | | |
| 論文題目 (Title of Dissertation) 日本近代文学に見る〈教員〉像と教育言説の研究 | | | |
| 論文審査担当者 (The Dissertation Committee) | | | |
| 主 査 (Name of the Committee Chair) | | 准教授 | 下岡 友加 |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member) | | 教授 | 有元 伸子 |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member) | | 教授 | 久保田 啓一 |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member) | | 教授 | 河西 英通 |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member) | 同志社大学・准教授 | | 瀬崎 圭二 |
| 〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation) | | | |
| <p>本論文は、日本近代の文学作品並びに教育雑誌の言説分析を通じて、明治30年代から大正期における学校教員像の形成とその流過程を明らかにしたものである。</p> <p>第I部は教育雑誌の掲載小説・記事を主な考察対象とする。第一章では、『教育学術界』に掲載された中内蝶二「寒梅」(明治35年)をとりあげ、同小説が同時代の教育言説を物語化して理想の教員像を表象するテキストであることを論じる。</p> <p>第二章では、多くの教員読者を獲得した小泉又一『棄石』(明治40年)を中心とする教育雑誌掲載小説が青年教員読者の立身出世欲を抑制する表現を繰り返し、彼らの欲望をさえぎる機能を担っていたことを論じる。</p> <p>第三章では、大正初年の教育雑誌掲載小説が、地方に奉職する女性教員の姿を肯定的に描くことで彼女らを周縁・下位へと追いやり、教員社会における男性優位のジェンダー秩序を維持・強化する装置として機能していたことを論じる。</p> <p>第四章では、教育雑誌の常連投稿者・井川恭の小説「海の花」(明治41年)から教職=聖職といったイメージに亀裂を入れる表現を別出し、教育や教職の価値・聖性が必ずしも投稿者に共有されていなかった様相を論じる。</p> <p>第五章は、『女子文壇』『青鞥』掲載小説における教員表象を検討し、女性の教員経験者・生田花世らの手になる表現が同時代の教育言説の画一性を浮かび上がらせるものであることを論じる。</p> <p>第II部は近代文学作品における教員像を主な考察対象とする。第六章では、夏目漱石「坊っちゃん」(明治39年)が教員読者にどのように受容されたかを詳らかにし、同小説が同時代の教員の待遇への批判性を有していたことを論じる。</p> <p>第七章では、田山花袋「田舎教師」(明治42年)の小学校教員・清三による教職を侮蔑するような内面が独白の形で語られている点を重視し、同小説を理想の教員像の虚構性を暴いたテキストと論じる。</p> <p>第八章では、正宗白鳥「入江のほとり」(大正4年)における小学校教員・辰男の英語「独学」行為を学校制度に抗う営みとし、その逸脱的行為による同時代への批評性を論じる。</p> | | | |

第九章では、谷崎潤一郎「小さな王国」(大正7年)に描かれた小学校教員・貝島の姿が「大正自由教育」に符合するものであるとし、貝島が失権し凋落する様子から同小説の持つ自由主義への批評性を論じる。

第十章では、大正期の人格主義的文芸観の中で「人道の教師」というイメージを形成していた有島武郎像が大正12年の情死事件後に大きく揺らぐ一方、教員読者の間では「生きた教材」としての受容が行われ続けていたことを論じる。

本論文は教育雑誌を中心とする明治大正期の資料精査により、文学作品の読者、或いは書き手としての教員の動態を浮き彫りにし、文学が日本近代の教員の規範形成に重要な役割を果たしたことを明らかにした。加えて、発表当時の教育言説の文脈における近代文学作品の読み直しもはかられており、意欲的かつ独創性の高い論文と評価することができる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(文学)の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)